



安心した老後生活の実現を

4月に完成した特別養護老人ホームを視察

今年4月、市立芦屋高等学校跡地に完成した特別養護老人ホーム等を市議会で7月に視察してきました。

これで芦屋市内に特養が8施設になりました。芦屋市が運営していた和風園は指定管理者制度が導入され、

はじまっています。山口みさえが常々言っていることですが、年金で入る特養が市内各地域にあれば老後、本人も家族も安心して暮らせます。そんな優しいまちづくりをめざしています。今年4月現在

市内特養の待機者は、601人、複数申し込んでいる人を名寄せしたとしても369人が待機の状況です。利用料金は、介護度や所得によって大きく変わります。芦屋でも古い施設はフルリノベーションしたり、新しい施設は高級ホテルと間違えるような立派な建物ではありますが、誰もが平等に老後を安心して過ごせるよう公的介護の充実をめざして頑張ります。

市議員 山口みさえ



特養の横には、「市立芦屋高等学校跡」の記念碑が建てられている

国の責任による、診察・入院治療を強く求める 要望書を提出

昨年芦屋市議会において、救急・医療体制や・自宅療養者に対しての要望を（急変したときの対応や物資について）してきましたが、国にも自宅療養者という名の自宅放置は許さないと要望しました。

要望内容（抜粋）

- ①国民のいのちを守るために公衆衛生・医療、さらには公的データの確立と対策にむけ、抜本的に公的な財政資力を駆使してください。
- ②公的検査、診察、入院治療をしっかりされ、「自宅放置」とも言える「自宅療養」を止め、臨時病院を設置し増床をはかるために、医療資源確保にむけ公的責任を果たしてください。
- ③例外的に「自宅療養」とするならば、自治体や関係団体との連携を強め、全国的な安全基準を設定し、定期的な医療における健康観察と食料品の支給、及びゴミの処置等も含めた生活全般の支援対応を求めます。

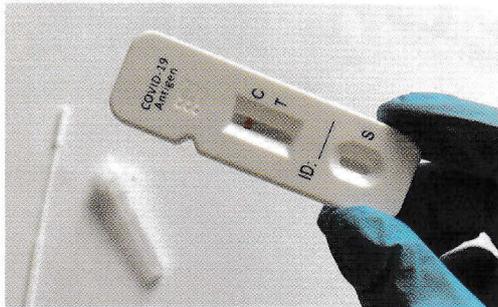
街頭、集会所 で活動報告

みなさんの声を聞かせて下さい

議会閉会中にできる限り市民のみなさまのお声を聞かせていただこうと、街頭議会報告会や、また各集会所をお借りして定例議会の報告集会を開催させていただいています。

この間議会で審議してきたJR芦屋駅南の再開発事業についてや、コロナ関連対策についてを主

写真はイメージです



抗原キットを無料配布

芦屋市役所南館において、医療機関のひっ迫を回避するために、緊急措置として抗原検査の無料配布を取り組んでいます。軽症の人や、年齢制限、



遠慮なくお声かけ下さい

にご報告してはいますが、街角ではわざわざ「みさえ通信ください」と受け取りに来てくださる方も

います。

集会所ではコロナ下ですの少数人数で、短時間を心がけながら、議会報告だけではなく参加者の方から生活をしている中で、気が付いた危険な道路の箇所のお話や、介護や特養の問題、子どもや孫の教育についてなど身近な問題を意見交換できる貴重な場で元気をいただいています。

自家用車を持っているなど種々条件がありますがご利用下さい。

最新の状況や詳細は、



芦屋市ホームページを
確認して下さい。

知ることの大切さ

ハンセン病患者への隔離政策の酷さを学ぶ

芦屋市人権教育推進協議会の研修に参加し、元療養者がお住まいの「長島愛生園」を訪れ、ハンセン病問題を学びました。

1930年に開園、らい予防法等で強制収容がはじまり、社会から孤立させられ戦後治療薬ができて治る病気となっても、国はなお隔離政策を続け差別と偏見を助長してきました。

どれほどの人権侵害が行われてきたか、家族と引き裂かれどれほど辛かったかを資料館、収容棧橋などをまわらせていただき目の当たりにしました。療養所にお住まいの方は、後遺症で介護や治療が必要だったり、リハビリ等を頑張っておられることも初めて知りました。知ることは本当に大切です。



入所者の多くがこの棧橋から上陸させられた④